

地方都市における都市化と城下町遺産の残存・消失に関する研究

法政大学大学院 学生会員 ○塚本 祐樹
法政大学大学院 正会員 宮下 清榮

1. はじめに

近年、地方都市において、大規模小売店や公共施設の郊外立地により、低密度拡散型の都市が形成されてきている。また、人口10万以上の都市の過半数は城下町を起源とし、大火や戦災、都市開発などで姿が変わり、往時を偲ぶことのできる城下町遺産は時代とともに消失してきている。城下町全域の区画が現存する都市は極めて少ないが、多くの旧城下町では城下町時代の痕跡を今日まで継承している。

そんな中、城下町をルーツとする地方都市において、国の重要伝統的建造物保存地区や戦災復興事業、歴史まちづくり法、または県や市の景観条例などによって古くからある町並みの保存が重要視されるようになってきた。そこで本研究では、近世城下町をルーツとする地方都市において城下町遺産である濠の残存率とDID(人口集中地区)の変遷等进行分析、都市化との関係を明らかにすることを目的とする。

2. 研究対象都市の選定

図1に研究対象地域を示す。本研究では、石高10万石以上であった城下町をルーツとする都市において、代表として各県につき最も石高の大きい城下町をそれぞれ1つずつ選定する。東京・大阪大都市圏は都市化の度合いが地方都市とは異なるため、山城は他の城下町と構造が異なるため除外した。

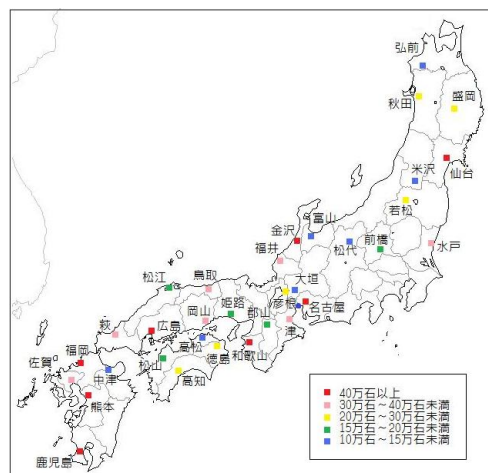


図1 対象地域

3. 城下町の概要・変遷と特徴

(1) 各城下町の歴史と濠の残存・消失

江戸時代における各藩の城下町絵図を参考に、ゼンリン電子地図に濠の残存・消失状況を書き込み、面積と残存率を計測した。城郭のあった部分は現在城址公園になるなど、多くが保全されているため内濠の残存率は全ての城下町で比較的高かったが、川を除外した外濠の多くは消失していることが明らかになった。図2では歴史まちづくり法を適用している都市を緑、戦災復興事業を適用している都市を赤、それ以外は青で表した。戦災を受けず、濠の残存率の高い松江、弘前、萩は歴史まちづくり法が適用されており、歴史的な風致の維持が行われている。一方で、戦災復興事業を適用した都市は第三象限に多く、残存率が低い傾向にあると示唆された。

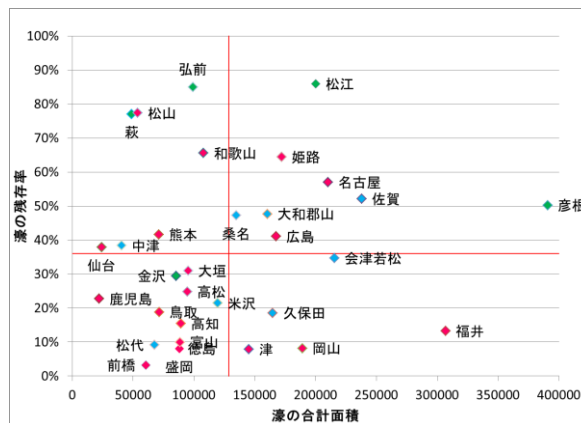


図2 濠の残存率と合計面積(内濠と外濠)

(2) 各城下町の地域構造の特性

城下町の地域構造の指標を用いて散布図を作成した。石高、領内人口、城郭面積、城下町面積など9個を用いた。図3から城下町居住率(城下町人口を領内人口で除した)が多く城下町で約一割にとどまっているが、富山だけ城下町居住率が高く、農村人口が低い。城下町をルーツとする都市の人口が藩の経済を支えていて、商業中心の都市であると示唆される。

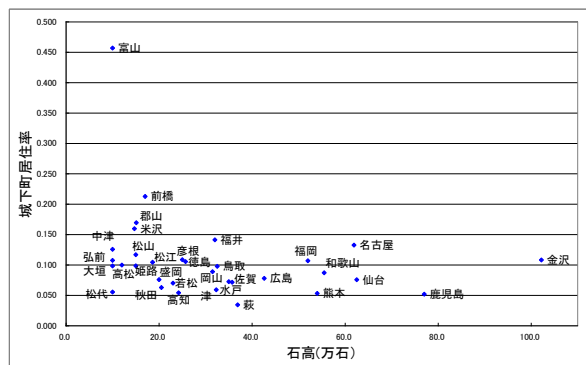


図3 石高と城下町居住率

4. 地方城下町と人口集中地区に関する分析

(1) 人口集中地区の推移からみた都市の広がり

江戸時代において、日本古城絵図等に描かれている町の範囲が市街地であったと考え、計測した城下町区

キーワード: 城下町 濠 都市化 DID(人口集中地区)

連絡先: 〒162-0843 東京都新宿区市谷田町2-33 法政大学デザイン工学研究科 miyasita@hosei.ac.jp

域の 1960 年～1980 年～2005 年それぞれの DID から、人口・面積・人口密度を計測した。図 4 を見ると、ほとんどの城下町は、1960 年後半から 1980 年ごろまで DID は拡大し、都市面積の拡大のスピードが人口の増加を上回った結果、低密度化が急激に進行した。

(2) 各城下町の地域構造と特性

各都市を比べてみると、石高が大きいほど DID 面積が拡大していた。政令指定都市となっている仙台、名古屋、岡山、広島、福岡の DID

面積は著しく拡大していた。中核市と呼ばれる都市で、石高の比較的小さかった都市である、郡山、姫路、富山、高松では面積拡大量が大きいことが明らかになった。

(3) 残存率と都市化

図 5 では残存率と DID 人口増加率との関係を示した。色の凡例は図 2 と同じである。松江、弘前等の歴史まちづくり法が適用された藩は残存率が高く、DID 人口も約 2 倍に増加していることが明らかになった。

5. 地方城下町とまちづくり

城下町を核とする市街地の都市化の度合いと濠の残存・消失の関係を各対象地域において人口密度の分布から把握していった。ここでは図 6 で示す松江を例に挙げる。城郭はほぼ江戸時代の形を残している。三の丸のあたりは官庁街になっている。城下町区域の南に人口密度の高い地域が広がっている。内濠はほぼ昔のまま残っており、外濠もほとんど残っている。濠が消失している部分は大方町丁目人口密度の高いところである。

6. おわりに

本研究では、城下町遺産である濠の残存率と人口、面積、密度から見た都市化について分析した。残存率について内濠はどの城下町でも比較的高く、外濠は天然の川を利用している以外の部分でほとんど消失していることから城下町を中心とした都市化（埋め立てや道路、宅地化）は主に外濠で行われていて、城下町を中心とした DID は全ての対象地域で拡大していることが明らかになった。今回は城下町遺産として濠の残存率を中心に見てきたが、さらに多くの都市化や歴史的遺産の指標を用いることで、より高い都市化との関係性が得られるのではないかと示唆される。

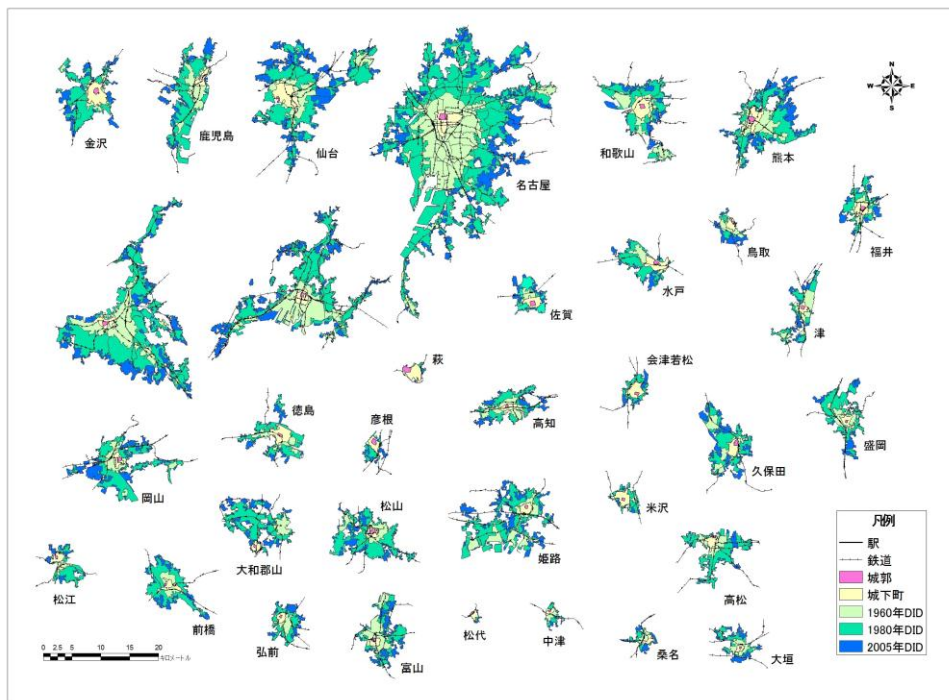


図 4 対象地域の DID の拡大

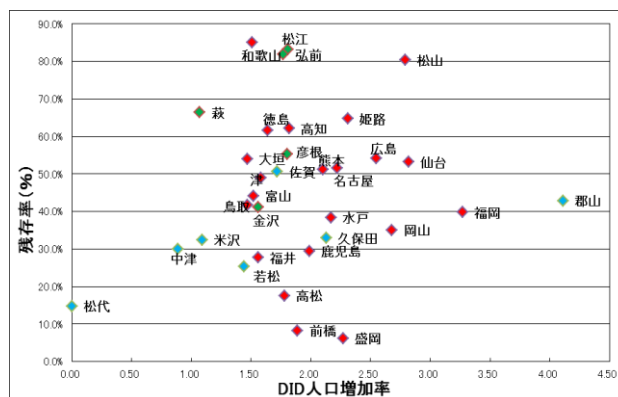


図 5 残存率と DID 増加率

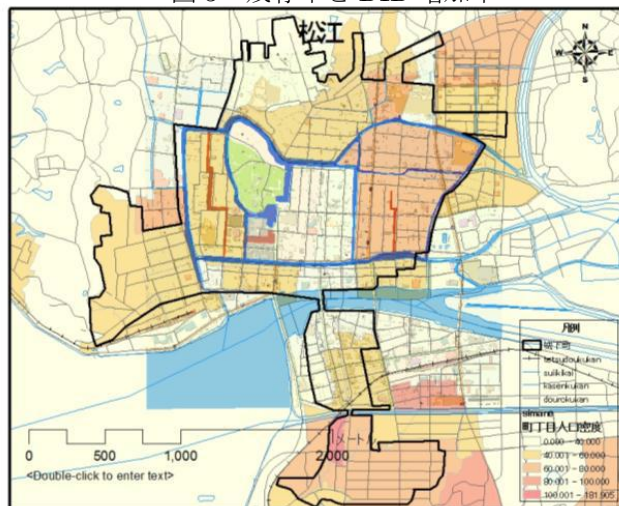


図 6 城下町区域と町丁目人口密度（松江）